

平成27年度 葉山町環境審議会議事録

日時：平成28年3月18日（金）13時30分～15時30分

場所：葉山町役場庁舎3階 議会協議会室2

出席者

（会長）原科 幸彦

（副会長）加藤 清

（委員）人見 孝、小林 正典、岡崎 岩夫、三橋 直吉、石井 春夫

（事務局）伊藤 義紀、坂本 泰一、雨宮 健治、櫻井 克哉

審議事項

（1）会長及び副会長の選任について

（2）傍聴の取扱いについて

（3）葉山町環境基本計画に基づく状況報告について

（4）その他

坂本環境課長

平成27年度の第1回葉山町環境審議会を始めさせていただきたいと思います。

開会に先立ちまして、環境部長の伊藤からご挨拶させていただきます。

伊藤環境部長

昨年4月から環境部長を務めております伊藤でございます。皆様ご存知かと思いますが、葉山町は一昨年6月からごみの全町戸別収集を実施しております。町民の皆様のご理解とたくさんのご協力を頂きながら着実にゴミの量も減っております。もう一方で、生ごみ処理容器機の普及に関しましても、葉山町にお住まいの松本さまのご発案で全国的に少しずつ広がっております。適正に処理して、環境の負荷を限りなく少なくする試みを行っております。町民の方々は、環境に関心が高く、平成27年の4月から始まりました総合計画の策定の際に町民の方々にアンケートを取らせて頂きました。その中で「葉山の一番の強みは？」という設問に「自然が豊か」と答えた方が約8割以上いらっしゃいました。そのため環境施策は非常に関心の高い問題であると考えております。皆様にご意見を頂きながら、環境施策を進めていきたいと考えておりますので、どうかよろしくお願い申し上げます。

坂本環境課長

ありがとうございました。皆様方、平成27年7月1日から平成29年6月30日までの2年間を委嘱させていただきました。本日の出席人数は7名、全員出席でございます。

第1回目ということでございます。継続して委嘱させて頂いた委員さん、また、新たに委嘱をお願いしました委員さんいらっしゃいますので初顔合わせということになりますが、

今後ともよろしく願いいたします。

それでは次第に入りまして、2の議題(1)の会長及び副会長の選任についてということで、お手元に配布させていただきました資料環境基本計画の葉山町環境審議会規則第4条第2項「会長及び副会長は委員の互選により定める」とあります。皆様からご意見があればと思いますが、いかがでしょうか。

岡崎委員

事務局の案はありますか？

坂本環境課長

はい、ありがとうございます。事務局案といたしましては、前回まで会長を務めてくださいました原科委員に引続き会長をお願いしたいと考えております。また、副会長につきましては商工会議所からの選出委員であります加藤委員をお願いしたいと考えておりますが、委員の皆様いかがでしょうか。

各委員

異論なし。(事務局案を承認)

坂本環境課長

ありがとうございます。それでは、会長を原科委員、副会長を加藤委員に決定させていただきます。原科会長、会長席へお移りください。それでは原科会長から就任のご挨拶をお願いします。

原科会長

原科でございます。よろしくお願い致します。この葉山町の環境審議会で長いお付き合いをさせて頂いております。環境基本計画の策定の際にも参加させて頂いております。私の専攻は社会工学という分野でございます。元々、東京工業大学で研究をしてきたのですが、社会工学が専攻で、領域は環境計画や政策参加の研究も行ってきました。そのため手続きとして重要になるのが、環境アセスメントということなのですが、日本は少し遅れているので伊藤環境部長がおっしゃったように、町民の方は環境に対する関心があります。その点、情報がなかなか十分提供されていないです。葉山町は日本の標準よりしっかりやっていますが、それでも身近な開発行為についてはなかなかわかりません。この点について、日本とアメリカずいぶん違いまして日本の場合の情報提供は少ないのですが、アセスメントの数がアメリカは2000倍くらいあります。中国は1万倍くらいあります。葉山町からモデルとして、そのような仕組みを導入できればと思っております。そうすると事業者と周辺住民との紛争が発生しにくくなります。町民の協力体制も変わってくるので

は思います。

今回もどうぞよろしくお願ひ致します。これからの新しい政策として展開して頂ければと思います。

それでは次第に即して進めていきます。傍聴の取扱いについてですが、事務局説明お願ひ致します。

坂本環境課長

はい。本日の環境審議会の傍聴を希望している2名が既に入室しております。傍聴の取扱いについてですが、審議会の申し合わせに則って決めていただくことになっております。まず、初めに取扱いについて決めていただきたいと思ひます。参考までに前回審議会までも公開となっております。

原科会長

原則、公開ということで進めればと思ひます。(審議会公開決定)

続きまして、環境基本計画に基づく状況報告について事務局説明お願ひ致します。

雨宮環境課長補佐

葉山町環境基本計画に基づく状況を報告(資料:はやまの環境)

原科会長

これにつきましてご意見・ご質問ありましたらお願ひ致します。

小林委員

住民参加を進めていくうえで、この審議会の場は必要だと思ひますので、行政と対話して環境行政にうまく貢献できるように今後進んで行けばいいなと思ひます。

緑については緑の基本計画が検討中とのことで、それについて審議会としてどのような形で貢献できるかというのがひとつのご質問で、県または町の緑地と記載がありますが住んでいる町民の視点からすると、私有地を含めた緑に境界線があるわけではないので、緑地が減ってきている印象があつて、資料の数字だけ見ているとそんなに変更は見られないですけれども、緑全体を統合して考えたときにどのような評価ができるのかということ。公園も関係するが、開発逃れの動きもあるので、私有地の緑についても審議会で議論できればと思ひます。

原科会長

今の件について、環境基本計画で触れた経緯があります。4頁の環境基本条例第3条の基本理念を基に議論してまいりまして、6頁の図にあるように土地利用をターゲットとしたので

すが、その後の施策でうまく発展しなかったですね。この点について、町としてどのようにお考えですか。

雨宮環境課長補佐

はやまの環境に記載しているのは地域制緑地と施設制緑地がほとんどなので、委員のおっしゃるように私有地については都市的土地利用の転換等によって減っていることが分かっております。また、会長のおっしゃるように今後の施策については改訂予定の緑の基本計画に環境アセスメントの考え方を取り入れて、葉山町の自然環境のあるべき姿を取り纏めていければと思います。審議会の皆様からのご意見頂きながら進められればと思います。

原科会長

情報公開をするプロセスが非常に少ないので日本でもっと普及させる必要がありますので、葉山らしいまちづくりのためにも必要な制度だと思えます。

小林委員

一色第5町内会でいけがきがキレイなのは助成だけでなく、おそらく住民の方々がコンクリート壁を作らないようにしようという、意思疎通によってできている賜物だと思います。他方では陸前高田市にも生ごみ処理容器が普及しているので、キエー口発祥の地として葉山が誇れるようにアピールできればいいかなと思います。

雨宮環境課長補佐

一色第5町内会については、地域住民が雰囲気壊さないように、それぞれ配慮しているものだと思います。「こうゆう町を作る」というぼんやりしたイメージを開発する業者にきちんと伝わるのが一番かなと思います。今はないので好きに開発しているような現状です。そこから必要なもののために規制、または誘導策を展開していく必要があると思えます。

原科会長

今年は川の現地確認できる予定はありますか。

雨宮環境課長補佐

子どもたちや町内会・自治会の方々と、昔の環境とどう変わったかを学べるようにしたいと思っております。夏休み中の開催を検討しております。是非ともその際には委員の皆様にもご参加して頂ければと思います。

岡崎委員

川の調査について、環境関連団体が精力的に活動しているので、協働と観点から一緒に活動できませんか。

伊藤環境部長

環境関連団体とは以前にお話させて頂いた機会がありまして、任意の団体だと難しい部分もあるので、町と連携策を検討することで、相互扶助できるものがあり、今後事業を一緒にできればと考えております。

市街化区域については下水道を10年概成で敷設整備して、市街化調整区域については合併浄化槽については補助制度を見直して、整備促進していきます。水環境を良好に保つために町が環境施策として取り組まなければならないことなので、その啓発事業の一環として企画しております。

小林委員

10年20年から30年50年までの水質検査の数値と比較できればと思いますが、遡るとさらにいいデータかなと思います。また、合併処理浄化槽に転換することによって、どのくらい川へ影響が減るのかも調査できればと思います。

原科会長

大きなイベントとしてメディアに取り上げてもらうのがいいと思います。他にございますか。

三橋委員

森戸川の「さかなのすみか」は今も調査していますか。

雨宮環境課長補佐

5年前までは現地調査していました。現在は河川水生生物調査を下山川とローテーションで調査していますので、再度調査する年度が回ってきます。

小林委員

岐阜大学と連携でやっている事業がありまして、岐阜では合併処理浄化槽が主流となっていて、岐阜県浄化槽連合会が大学のプログラムにも奨学金を出しており一つの事業となっているので、葉山町でも地元に着した業態を構築するようにしないといけませんね。

雨宮環境課長補佐

市街化調整区域に合併処理浄化槽を普及する施策を検討しているのですが、適正な管理として頂かないと良好な水環境を維持できないので、敷設するだけでなく良好な管理も含め

たものを検討しております。

岡崎委員

施工費に何十万円もかかるものを転換する可能性はありますか。

伊藤環境部長

浄化槽メーカー等と連携していくことや町からの補助単価を引き上げて、自己負担額を減らせるように検討しています。

岡崎委員

合併処理浄化槽の推進のみならず、油や煮汁を流さないようにしようという啓発も必要だと思います。キエー口で処理できることも併せて啓発するといいと思います。

小林委員

発生源の問題に言及することはとてもいいこと、事業用排水には特に厳しく調査すると解決の糸口になるのではないのでしょうか。

原科会長

下水道の10年概成計画のために、大きな事業所等を整備するといい啓発になると思います。河川で気になったのは森戸川がE類型なのはどんな理由が考えられますか。

雨宮環境課長補佐

県主体の調査となっておりますので、調査年度がちょうど悪かったのではないのでしょうか。

人見委員

見直しのタイミングの時にどれだけ向上しているかで判断させていただきます。県のホームページに昭和50年代からのデータが載っています。評価の仕方は違うのですが、その頃の時代から見ると向上しています。

町民の方にお話する際に目標を提示すると良いのかなと思います。

小林委員

川だけでなく、海・山・畑を併せて広域的に考える必要があると思います。

原科会長

環境審議会では引続き、広域的に議論できればと思います。

以上で、本日の会議を終わります。ありがとうございました。